影

四年　ひな子

あづさゆみ春日の落す木々の葉の影やゝゆれて
風かをり來る
木々の影木々をとひかふ鳥の影ほどよく窓にう
つる朝かな
やはらかき春日の落す木の影を心かろ〳〵今日
もふむかな
てまりつく妹の影のあり〳〵と障子にうつり歌
聲のする
日だまりに影ふみをして遊ぶ子のとよめき聞ゆ
のどかなるひる
木々の影ものゝ影みなうすれゆく夕はさびし鳥
のなくさへ
春の夜のまちのほかげをなつかしみたゞ何となく
くいでて來しかな
その昔よくせしあそび影ふみの思ひ出らるゝよ
き月夜かな
うすながく引ける我影ものゝ影消えて靜に日は
暮れにけり

□　□　□

五月雨

さみだれにぬれし若葉の色見ればたゞ何となく
ものゝこひしき
しみ〳〵と物思ひするわが身にはさみだれ時ぞ
うれしかりける
しめやかにふるきことなど語りあふ五月雨頃の
夜の靜けさ
さみだれの夜の寂しさもわすれけりとなりの家
の三味の音よきに
歌につかれ文にもうみてたゞ人のこひしかりけ
り五月雨の夜は
つゆばれの夕の丘べあかき灯の町をみおろし涙
するかな
しめりたる土の香をかぎつゆばれの林をゆけば
心たのしも
つゆはれの空を仰ぎぬしみ〴〵と嬉しき人にあ
ふ心地して

三年　せつ子

花の中につとゝび入りし紫のことりは夢の我な
りしかな
紫の山につゞきてはつなつの緑ののべのうちひ
ろごれる
初夏の光かゞやく朝の空わがかなしびにかゝは
りもなし
靜けさにうちひたらんと夕まぐれ緑の岡に一人
のぼりぬ
風もなく雲も動かぬ靜けさのまなかに立ちて春
の山見る
滿ち足ゐといふ事しらぬ此頃の我のこゝろのや
ませなきかも
かなしびといふ事知らぬ者のごと君笑み給ふ春
の夕ぐれ
わが歩む麓の道と君あゆむみねの道とはいづれ
まされり
いと遠きものと思ひし光明の世を今我の歩みつ
ゝあり

江の島と鎌倉

二年　C T 子

誰ぞ來り扉をひらけいにしへの右の大臣に涙た
むけむ　（實朝の墓にて）
黑がみを梳く手とゞめてする〳〵と昇る陽を見
る江の島の宿
江の島の島回の波の水色のきぬのべしごとひか
る初夏
極樂寺電車下るれば初夏の日は青葉なす坂の上
に照る
鶴ヶ岡八幡宮のみやしろに鳩もひそみて夕とな
りぬ

初夏

二年　きみ子

少女子の輕き袂に風かほり光あかるき學びやの
庭
桐の花音なく落ちて黃昏るゝ故郷の夏のにほひ
うれしも

すがやかにはさみならして花うりの來る音すなり初夏の朝
さかえゆく綠を見れば慰むと床が一りしぬやめる妹
ならしたる土に小さき種まけば夏來にけらし土の輝く
よき人にぼたんの如くゐつかれて此の初夏を嫁き行く人
匂やかに淡紫のもやこめて藤のつゆ散る初夏の朝
銀色に若葉はをどりさはやかにすみたる色の初夏の空
我のごと君は若しと若葉みなわれにさゝやく嬉し此頃
しらしらと殘る櫻のこぼれ來る初夏のまひるの庭の悲し

□　□　□　□

◉新聞屋　　尋三

此の間の遠足の時、山の手電車が新宿で止つたら、ある紳士がまどからくびを出して「ヵーイ新聞を吳れ」と云ひました、新聞屋は向ふの柱のところにたつてゐましたがきこえないのか、きこえてもくるのが面倒なのか、たゞあくびばかりしてゐてちつとも來ません、そこにゐる人達はみんな笑つてゐます。

あまり來ないので紳士は怒つて大きな聲でどなりつけましたので、やつと、のそのそ歩いてきました、その時もう電車はうごき出してゐました。

商賣がいやならやめてしまへばよいのに、ほんとにをかしい新聞屋です。

文科の動靜

四月二日　午後六時頃から東京に殘つた五人が宮裏の關根先生の御宅へ伺ひました、折柄下村先生も御見えになりまして、色々なお話に花が咲き、喜の限りを盡して御宅を出ましたのは、可成り人通りも少くなりました頃、嬉しさをねえぷるの御土產に包んで、靜かな舍へ歸りました。

五月三日　色々な時代を含んで居る、四十年と云ふ長い間を女子敎育の爲に、又本校の爲に、殊に多く文科の爲に御盡し下さいました佐方先生が、御頽齡の故を以て御辭任になりましたに就いて、如蘭會主催の下に送別の式を致しました。とは云へ私共も先生の御敎へを何時迄も御受け致し度う存じます、先生は講師として此の願を容れて下さいました。

同日　長坂好子先生が本校の授業囑託を命ぜられました、四年生の一部分が聲樂を御習ひ致して居ります。

五月二十八日　午前八時本校生徒一同講堂に參集、照憲皇太后の御影を拜し、それより校庭に於て如蘭會各部の運動競技に移る、午前中は体操競技、薙刀、弓技(これは射場にて)晝食、庭球、柔道、体操競技、拍手と萬歲の中に散會したのは午前三時頃。

六月十一日　本校校長中川謙二郎先生、御頽齡の故を以て御退官、御願出の御裁可有り、全校職員生徒一同驚き惜しみ奉りしも如何とも爲し難し、則ち本校は、はた本會は、本日を以て、前校長中川先生を送り奉り、元音樂學校長湯原元一先生を新校長として迎へ奉る。

六月十二日　午前十一時より、講堂に於て、前校長中川先生告別式、新校長湯原元一先生就任式。

◉途上雜記　　善子

學校から家への道を、私は急いで行く、ゆつくり歩いても十五分の道を、私は急いで行く。

家へ歸つても何をする氣か、急ぐ用事は別にない、時間が惜しいのか、今日は土曜日である。

それでも私は急いで行く。

私が向つて行く所は私の家なのだから、それで私は急いで行く